

# 災害に強い新庁舎建設へ

市は、今年着工し平成32年の完成を目指して、市役所新庁舎の建設をすすめています。

昭和39年に建てられた現庁舎は、老朽化による雨漏りや空調設備の故障など、維持管理費がかさむほか、市民サービスの多様化などにより、窓口が本庁舎のほか東と北の庁舎に分散しているため、市民の皆さんに不便をおかけしています。

また、近年の大規模地震で被災した自治体では、耐震工事を施工した庁舎が使用不能になり、代替施設で執務が行われていることから、本市では大震災に耐えられる「免震構造」を採用し、災害に強い庁舎を建設する必要があります。

今回は、こうした課題を解決するため、市がすすめる新庁舎建設の計画についてご紹介します。

詳しくは、庁舎建設推進室（☎47-7439）へ。



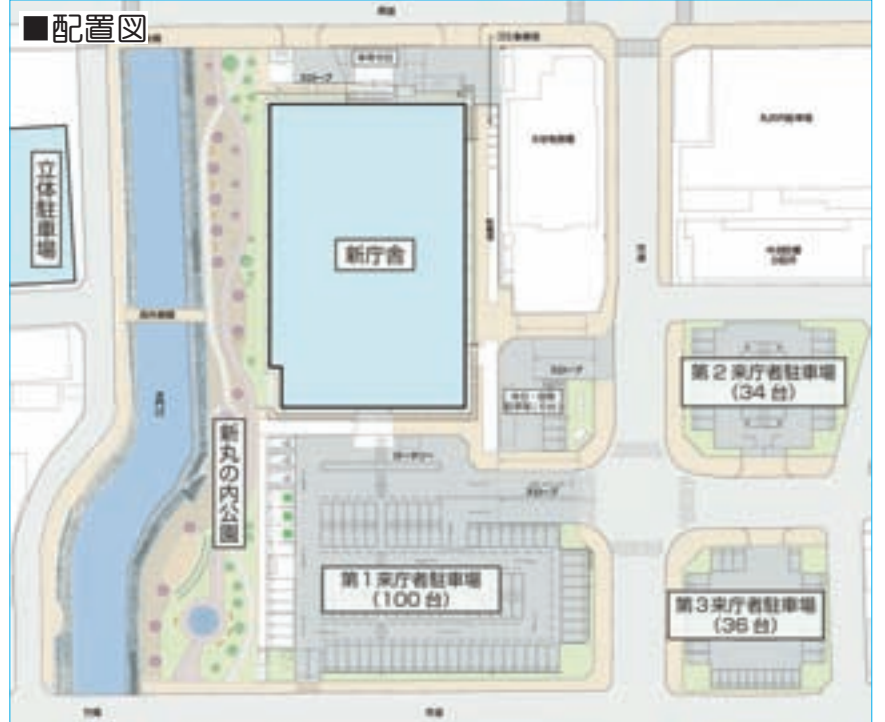
南東から見た新庁舎のイメージ

## 計画概要

建設地	大垣市丸の内2丁目29番地 ほか
延床面積	20,806.19㎡
構造	鉄骨造（免震構造）
規模	地上8階、塔屋1階（高さ42.23m）

### ■フロア構成

階	フロア構成
8F	塔屋、食堂、大会議室、サーバー室等
7F	議場、議会開議室、執務スペース（議事事務局）、会議室
6F	会議室相談室、執務スペース（経済部、労働委員会）、会議室、更衣室
5F	会議室相談室、執務スペース（建設部、都市計画部）、会議室、更衣室
4F	会議室相談室、市長等部局、災害対策関連会議室（消防室、企画部、情報委員会）、会議室、更衣室
3F	会議室相談室、執務スペース（本部長、秘書課）、会議室、更衣室
2F	市民3次元スペース、窓口スペース（総務部、子育て支援課、生活福祉部）、会議室相談室
1F	多目的スペース、市民ロビー、窓口スペース（福祉部、子育て支援課、会計課）、市民銀行、会議室相談室、休日市民センター



## 設計の基本方針 1 利用しやすく人や環境に優しい庁舎



1階市民ロビー

利用者の多い窓口部門を低層階に広く確保し、すべての来庁者にとってわかりやすい配置とします。

### ■誰もが利用しやすい庁舎

新庁舎は、アクセスしやすい出入口の配置、わかりやすい窓口の設置、充実したサイン計画など、初めて庁舎を訪れる人にもわかりやすい施設とします。

また、授乳室やキッズコー

ナー、多目的トイレ、車いす・思いやり駐車場の設置など、誰もが利用しやすいように配慮した庁舎です。

### ■環境に優しい庁舎

市の地域特性を踏まえ、豊富な井水や日照などの自然資源を生かした新エネルギーを導入するとともに、様々な環境配慮手法により、自然を最大限に生かしたエコな庁舎とします。

## 概算事業費

概算事業費は、液状化対策や工事中の地下水対策を含む本体工事費104億円に、来庁者駐車場などの外構工事費や現庁舎解体工事費を含めた121億円となります。

財源は、国庫支出金をはじめ、公共施設整備基金などの基金や、返済金の70%が国から地方交付税として措置される合併特例債を活用し、可能な限り事業費の抑制に努めていきます。

区分	事業費	
本体工事費	104億円	
外構工事費	5億円	
解体工事費等	12億円	
<b>合計</b>	<b>121億円</b>	
財源	国庫支出金	2億円
	基金	53億円
	合併特例債	50億円
	一般財源	16億円

## 事業スケジュール

